

さまざまな仕組みで 自覚ある職人を育てる

有限会社原田左官工業所

本社所在地：東京都文京区

事業内容：左官工事、タイル貼り工事、防水工事、組積工事

従業員数：38名（平成25年12月現在）

4年間で一人前の職人に育てる

原田左官工業所は左官工事のほか、ブロック工事（組積工事）や防水工事、タイル張り工事など「こて」を使う建築の仕事幅広く手掛けています。また、人材育成に熱心な企業としても知られ、「キャリア支援企業表彰2013 厚生労働大臣表彰」を受けています。

同社ではハローワークや近隣の高校、工業系や美術系の大学などに求人を出して、新人を募集しています。採用のポイントについて原田宗亮代表取締役社長は「協調性」を第一に挙げ、「私たちはチームとして仕事をしているので、協調性はとても大切です」と話します。

新人はまず左官のモデリング訓練を受けます。この訓練では名人と言われる左官職人の施工作業をビデオで学びつつ、先輩からのアドバイスを受けながらベニヤ板1枚ほどの大きさの板に塗り作業を繰り返し行います。またこのときの様子をビデオに撮影し、どこに問題があったかを確認できるようにしています。

「この育成方法はとても効率がよく、以前では考えられないほど早く左官の仕事が覚えられます」（原田社長。以下同）。

入社から4年間は見習い期間で、その間新人はモデリング訓練などのOFF-JT、現場に出るのOJTによって技能を身につけていきます。またこの4年間、新人は定期的に社長との面談をします。

「この新人はどのように育っているかを把握するとともに、仕事や職場での悩みについても話し合います。面談

後はその結果を勘案し、今後その新人をどのように有効に生かすかを考えます」

入社5年、10年の先輩社員が親身になって新人をサポートするブラザー・シスター制度も設けており、月1回お互いで面談をします。またブラザー・シスター同士も3カ月に一度飲み会を催し、情報を交換し、指導内容などについて話し合います。

見習いの4年間を終えたときは、ホテルの会場を借りて「年明け披露会」を催します。ここには社員全員のほか、本人の家族、取引先関係者など一〇〇人余りが集い、一人前になったことを祝福します。本人がこれまでの感謝と今後の決意を述べ、記念品やお祝い金が授与されます。またこれまでの仕事ぶりを写した写真を1冊の本にまとめたものも贈られます。この披露会について原田社長は次のように語ります。

「披露会はこれまでを振り返り、またこれからに向かって踏み出すための一つの区切りです。職人は一生をかけて腕を磨き、常に精進しなければなりません。目標がないと途中で気持ちが悪えてしまつこともあります。この披露会はそのような状態に陥ることを避け、モチベーションをもち続けるための仕組みと言えるでしょう」

同社では以前からインターンシップを導入し、ものづくり大学や職業訓練校から学生を受け入れています。さら



に旅行社と提携し、「左官職人になる旅」の参加者を受け入れています。この「旅」にはさまざまな人が応募し、原田左官工業所で左官の仕事を体験しています。こうしたインターンシップや「左官職人になる旅」を経て、実際に入社した社員もいます。

目的意識をもって 仕事をするために

原田左官工業所では社員が左官やタイル張りなどの技能検定試験に挑戦することを奨励しており、会社が受検料を全額負担し、さらに一級合格者には奨励金が支給されます。ほかにも外部の各種研修会などに社員を派遣し、各々のスキルアップに努めています。

全社員は年に1回社長と面談し、目標の達成状況を確認し、新たな目標に向けての話し合いを行います。原田社長はこの面談について「職人は、いつたい自分は社内でのどのようなポジションにあるのかわかりにくのが実情です。この面談を通して自分の立場を再確認させ、目的意識を明確にして仕事に取り組んでもらうようにしています」と話します。

同社では年度初めにその年度の経営計画を発表するとともに、全社員に配布します。また月1回開かれる全体会議で経営計画の読み合わせを行って、社員一人ひとりがその実現に向けた意識づけをするようにしています。

「このような取り組みによって、経営に関心をもつことが自分の待遇にも反映されるのだという意識が芽生え、コスト意識も生まれてきました。結果、社員たちは日々の仕事でもさまざまな工夫をするようになりました」